

## 【資料6】

### 令和5年度 第1回保護林管理委員会 白髪岳生物群集保護林現地検討会 ～概要版～



白髪岳山頂の様子（2023年5月25日撮影）

#### <日程>

8：30～10：00（ホテルサン人吉内の会場）

白髪岳生物群集保護林及び植生保護柵の現況と現地検討会の目的について説明  
※当日配布資料あり

12：00～16：00（白髪岳生物群集保護林 3049 た林小班外）

現地検討会

※別添1に当日のルートを示す。

#### <現地検討会の実施場所について>

白髪岳生物群集保護林ではニホンジカによる植生への影響が非常に大きく顕著で、山頂周辺や尾根部を中心として植生が喪失した状態が続いており、降水による侵食が発生しやすい状態になっている。なお、本保護林は今年度のモニタリング調査の対象であり、6箇所のモニタリングプロットが設定されている。

これまで本保護林では、植生の衰退や土壌の侵食が発生している箇所に、植生回復を補助し土壌侵食を食い止めることを目的として、232プロットの植生保護柵（以下、柵）を設置してきた。柵の設置により植生が回復し、植生の衰退や土壌の侵食の進行を防ぐことができた箇所もあるが、柵の破損、シカが柵を跳び越える、または柵の下をくぐり抜けるなど

してシカが侵入することにより、植生回復できていない状況が確認されている。このため、引き続き委託や職員による巡視・修繕を行いつつも、今年度設置する柵については、これまでの課題を踏まえて、より効果的に植生回復を図る観点から設置箇所を検討した。

今年度の柵設置については、潜在植生の回復や周辺からの種子供給による植生回復を期待し、植生の衰退を食い止めることに視点を置いた。すでに降水による侵食が始まっている箇所ではなく、現状のままにしておく今後侵食が発生しそうな箇所に先回りして柵を設置することを検討した。候補地については、植生の状況および柵資材の運搬、巡視に係る労力も考慮したうえで、昨年度、森林管理署の職員で踏査して選定した。

今回は、これまでの柵設置の考え方から視点を変えた計画としており、柵設置による効果を高められるよう、今年度の柵設置予定箇所での現地検討会を実施することにした。

#### <現地検討会での検討事項>

委員会現地検討会は、設置予定箇所である保護林内（森林は衰退しコバノイシカグマで被覆され、裸地化も確認）と保護林外（森林があり、ブナも確認）の境界周辺を予定しており、先述した目的を達成するために柵の設置により①母樹からの種子散布による植生回復を期待できるか、②人為的な植生回復（植生回復した柵内からの移植等）は検討できないか、③柵配置案は妥当か、等について検討を行いたい。

#### <参考数値>（令和5年7月6日時点）

- ・パッチディフェンスの数は232プロット
- ・ゾーンディフェンスを含めると総延長23,080m
- ・今年度設置予定のプロットは25m四方×15～20箇所想定

#### <令和5年度植生保護柵設置予定箇所の状況>



# 現地検討会 会場までのルート

別添1



駐車場

林道を歩く  
(30~45分) ※

現地検討会 会場

林道を離れ  
作業道→林内を歩く  
(30分)

- 現地検討会ルート
- 保護林区域

※車での移動も必要に応じて可能です  
(小さい車両に乗り換え)

あさぎ町